

(熊本県立鹿本高等) 学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標

1 綱領

自主自律【進取の気象を涵養する】

質実剛健【好学の気風を養成する】

師弟同行【敬愛の美風を育成する】

2 教育方針

「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「学校安全・安心推進課取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の綱領等に則り、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する。

3 教育スローガン

探究（挑戦）する生徒の育成

～支えるのは学校、ステージは世界～

4 教育理念

- (1) 基本的生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成【徳育】
- (2) 基礎学力の定着、学習意欲の向上、国際性を高め探究（挑戦）する力の育成【知育】
- (3) 特別活動や部活動の活性化をととした健やかな心身の育成【体育】
- (4) 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成【進路希望の実現、自己実現】
- (5) 保護者や地域社会、大学等の関係機関との連携・協働【開かれた学校】
- (6) 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成【信頼される教職員の育成】

2 本年度の重点目標

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの新しい学びのスタイルによる学力向上・進路実現
 - ① 学びの質を高めるための、OJT等による授業方法の工夫・改善
 - ② 年間の指導と評価の計画や観点別学習状況評価、成績評価規定の見直しの実施
 - ③ 生徒発表会や各種検定、各種大会等の積極的・戦略的な利活用による、個々の生徒への的確な支援
 - ④ 外部講師による講演会や企業見学、実習等による望ましい勤労観・職業観の育成
- (2) 教職員が生徒一人一人に寄り添い支援することによる自主自律の精神
 - ① 相手を尊重する関係づくりに根ざした人権意識、規範意識の醸成
 - ② 教職員が情報を共有し、一丸となって取り組む個々の生徒に対する心の支援
 - ③ 危機管理（交通マナーやネットトラブル、防犯、自然災害等）に対する意識の醸成と危機回避能力の育成
 - ④ 特別活動や部活動の活性化による表現の場の保障と相互尊重の意識の醸成
- (3) 本校ならではの教育活動や関係機関との連携・協働によるイノベーターやグローバルリーダーの育成
 - ① SSH等を活用した大学等との連携・協働による指導方法の充実・深化
 - ② 海外大学との研修等、これまで培ってきた本校ならではの教育資源の有効活用
 - ③ 保護者や地域社会、同窓会に本校の取組について理解を得ることによる外部環境の充実
 - ④ 戦略的な広報活動や探究活動の取組推進による意欲的な生徒の確保
- (4) 「働き方改革」を念頭に、常に業務改善に取り組み、外部専門家の活用、学校行事の精選、職場環境の向上を図る

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本校の教育目標を理解している。	・カリキュラム・マネジメントの実践 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの新たな学びのスタイルによる学力向上・進路実現	・全職員が、本校教育目標の具現化に向けた教育活動に取り組む。 ・SSH 事業を軸足に据えた教育活動を推進する。 ・ICT の更なる活用を推進する。 ・観点別学習状況評価を実施する。	・全職員が業績評価に本校の教育目標を反映させた具体的目標を掲げて業務に取り組むよう、全職員との面談（学期に1回以上）を行う。 ・先進校視察や外部機関との連携強化。外部発表会への昨年度以上の参加。 ・双方向の ICT 進むよう、情報活用推進リーダー会で研修を企画する。 ・職員研修による情報共有と取組推進を図る。	A	○全職員の業績評価（自己評価シート）の中に、教育目標との関連を明記させ、周知を図ることができた。 ○県外の SSH 先進校視察を7校実施した。 ○県外の2校から SSH に関する本校視察を受けた。 ○外部発表会やコンテストへの応募では、参加生徒数が大幅に増加した。 ○ICT 活用に関する研修等を実施し、ICT 活用力が更に高まった。 ○業務等を見直し、観点別学習評価の精度を高めるための検証を行う時間を確保した。
	学校運営協議会（総合型）が機能している。	・委員からの意見を十分引き出している。 ・年3回の協議会で意見を聴取している。	・学校評価を学校運営協議会で十分検討し、学校改善につなげる。	・使用する資料は事前に委員に郵送する。 ・委員に学識経験者を加え、客観的な評価をいただく。		○各部署と連携し、実施1週間前を目標に資料を作成し郵送することができた。 ○会の進行を工夫し、委員から多様な観点から意見をいただき、学校運営に生かした。
	組織体としての一体感が醸成されている。	・職員の連携・情報共有、協力体制の整備 ・管理職への報告 ・連絡・相談の徹底	・運営委員会以外でも各部・各係の連携及び調整や検討を密にする。 ・生徒情報を共有化し、教職員全員が共通理解のもとで指導にあたる。	・分掌内で得た情報は個人情報に配慮しながら積極的に発信し、共有化を図る。 ・組織的な動きのなかで、各部を超えた協働作業を推奨し、支援する。 ・個人の積極的な取組を推奨し、支援する。	B	○組織の在り方に関する提言を管理職から発信し、職員間で共有した。 ●新たなチャレンジを推奨する一方で、一部の教職員への業務の偏りも生じた。

	業務改善、働き方改革を積極的に推進し、風通しのよい快適な職場環境づくりを行っている。	・日常的な業務改革の推進 ・週あたりの授業数の見直し	・校務改革の具体的提案・実践。	・衛生委員会を定例で月1回実施、教職員の体調等の早期把握と共有を行い、早期対応につなげる。	B	○衛生委員会の定例実施と職員面談を実施し、職員の健康診断受診などに繋げた。 ○メンタルヘルス職員研修を実施した。 ●月 80 時間以上の時間外業務が常態化している職員が数名いる。
		・休暇の取得率向上	・働き方改革を念頭に、常に業務改善に取り組み、年休取得率向上を図る。	・職員朝礼回数の削減、会議の精選など具体的取組に着手する。 ・定時退勤日の新たな設定(月2日)。 ・年休取得10日以上を全職員が達成する。	A	○新たな業務改善を進めた結果、夏季特別休暇の完全取得を達成した。 ○職員の年休等の取得数も増加傾向にある。
学力向上	教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。	・適切な教育課程の編成	・学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒にとってより良い教育課程となるように教育課程の編成を行うとともに見直しを行う。	・県教育課程の研究協議会等も踏まえながら校内の教育課程検討委員会で検討するとともに、新課程の学習評価についても引き続き情報収集及び研究を行う。	B	○県教育課程研究協議会も踏まえながら、教育課程の編成や変更を行った。 ●本年度入学生の学習評価方法のすり合わせについても、引き続き研究を進めていく。
		・適切な教育課程の運用	・行事などの早期把握につとめ、適正な授業時間数の確保に努める。	・全教科シラバスを作成し、生徒に提示する。 ・他の部署と連携した行事予定の設定をする。	A	○今年度は作成した全教科のシラバスを Chromebook で生徒に提示することができた。 ○曜日調整や行事の設定については、概ねスムーズにできた。
	適切な学習指導がなされている。	・分かりやすい授業の実施 ・個に応じた適切な指導 ・自主的・自発的な学習の支援	・研究授業、授業公開、授業評価アンケートを他の部署と連携し計画・実施する。	・研究授業を各教科年1回以上実施する。 ・授業評価アンケートを年2回実施する。 ・長期休業中の特別補習授業を計画し、実施する。	A	○県内の指導教諭を招き、各教科で研究授業に取り組んだ。 ○Chromebook を利用し授業アンケートを2回実施した。 - Chromebook の利活用が定着しつつある。 ○夏季及び冬季休業中に特別補習授業を実施することができた。生徒の受講状況も良好であった。

		・授業改善の取組	・クロスカリキュラムの評価実践 ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・ICT活用の推進	・クロスカリキュラム（鹿本STEAM）について、各プロジェクトリーダーを中心にメンバー全員で評価法を検討する。 ・Chromebookを効果的に活用した授業を実施する。	B	○鹿本STEAMについては、プロジェクト毎の評価ができた。 ●鹿本STEAMと各教科の関連が希薄である。 ●理数探究の指導計画はできたが、評価計画は作成中である。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の組織的推進	・希望進路に応じた適切な指導	効果的な課外授業の立案と実施 ・生徒の進路希望に応じた個別指導と基礎学力向上対策の充実を図る。	・主体的な進路選択に必要な基礎学力充実のための課外授業を計画・実施する。 ・進学希望生徒、公務員受験希望生徒、大学入試選抜方法に対応した個別指導の充実を図る。 ・ICT等を活用した基礎学力向上の方法について研究する。	B	○3年生の課外授業は目標通り実施できた。1,2年生の朝課外授業は来年度の朝課外廃止に向けて、実施回数を減らした計画で実施した。 次年度は課題配信と個別指導を並行して学力充実を進める計画である。 ●スタディサプリについては担任を通じて指導していただくことにとどまった。
	進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	・進路決定の参考になる資料の提供 ・進路検討会の実施	・大学入試の情報整理と共通テストに向けての対策の研究 ・進路講話の実施 ・模試結果の分析と定期的な進路情報の提供	・各大学の入試説明会等を活用した情報収集を行う。 ・外部講師による講話を計画・実施する。 ・各学年の進路検討会を定期的に開催し、模擬試験結果の分析と情報共有を行う。	B	○各大学の情報等を、生徒が主体的にChromebook等を活用し調べることができた。 ○外語講師による講話を6回実施することができた。 ●進路検討会は計画的に実施できたが、情報共有だけに終わるのではなく、課題解決型の内容へと深めたい。 ○キャリアパスポートを使って学期始めと学期末に目標設定および活動の振り返りを行った。次年度は手帳を活用した計画と振り返りを実施していく。 ○大学の先生による医療系の職業ガイダンスを実施した。

	進路相談が適切に行われている。	・個人面談の充実	・個人面談の充実	・年間3回の面談週間を活用する。	A	○限られた時間の中で、個別面談を実施した。 ●面談時間の確保は今後も継続した課題の一つである。
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	・高校生活の心得の徹底	・生徒自らが考え行動する姿勢を身につけるための支援を行う。 ・生徒自らの活動を尊重した生徒会活動を行う。	・高校生活の留意事項を踏まえた上で、生徒が自ら考え、行動することを支援する。・生徒自身の考えや行動を極力尊重し、生徒会活動の活性化を支援する。	A	○生徒会が様々な面で主体的に活動し、コロナ禍での学校行事を充実したものにした。 ○生徒会の取組は賞賛に値する。
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	・全校集会における指導の徹底 ・HRにおける指導の徹底	・生徒指導に関する全職員の共通理解を深め、あらゆる場面で生徒の自己規範意識を向上させるよう全職員で指導に取り組む。	・挨拶・授業態度 ・掃除などの日常生活を通して、小さいことから全職員協力して指導をする。	B	●職員間の生徒指導に関する共通理解がまだ進んでいない。
	安全への意識を高める指導を行っている。	・自転車二重ロック推進 ・交通違反・事故ゼロ達成。	・自転車・バイク通学生の安全指導の徹底 ・日常の安全様々な場面を通して安全に対する意識を高めさせる取り組みを行う。	・バイクの実技講習会を実施して安全運転に関して再認識を促す。 ・職員朝礼や学年集会を利用した交通安全教育を実施する。	B	○バイクの講習会は予定通り実施できた。 ●交通安全に対する啓発がまだまだ足りていない。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	・PTAとの連携	・地域の活動に参加し、生徒の生活情報を入手する機会を増やす。	・山鹿市青少年育成巡回へ参加し、地域との関わりを密接にする。	—	●コロナ禍のため、巡回は未だ個々での対応のままである。
		・近隣校との連携	・近隣校との情報交換を積極的に行う。	・校則、制服などについて積極的に情報交換を行う。	A	○情報交換を積極的に行い、連携した生徒指導ができた。
	生徒の自主的・自発的な活動がなされている。	部活動、各種委員会の活性化	・部活動の活性化練習時間の確保、活動終了時間の厳守。 ・各委員会を委員長主導の形で運営する。	時間を大切に使う習慣づけを行う。 ・生徒自身が動きやすい組織作りを推進する。	B	○部活動は活性化している。 ●部活動終了後、速やかに帰宅し学習時間の確保に努めることは大きな課題である。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行っている。	・職員研修の実施	・教職員の人権感覚の向上を図る。	・生徒理解研修を年2回実施する。	A	○生徒理解研修を4月と10月の2回実施し、個別の生徒についての理解を共有した。

		・教育相談部の活用	・自他を大切に尊重できる生徒を育成する。	・SCによる職員研修を実施する。 ・研修の成果を生かして個に配慮した指導を行う。	A	OSC による研修はソーシャルスキルの指導をテーマに9月に実施した。
	豊かな人間関係づくりに向けた指導を行っている。	・一人一人の生徒が尊重される環境づくり	・生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・生徒の自主自律および自己決定能力を高める。	・心のアンケートや心と体の振り返りシートを活用した実態把握と支援を行う。 ・ソーシャルスキルトレーニングをSCの助言を仰いで実施する。	A	○振り返りシート(6月)・心のアンケート(11月)や面談による実態把握 ・支援を進めた。 OSC 研修をふまえてSSTの授業づくりを行い、10月に実践した。
	命を大切にすることを育む指導を行っている。	・定期的で適切な情報発信	・教育相談体制やカウンセリングなどに関する周知徹底を図る。	・入学時・保護者会において情報提供を行う。 ・SC通信の発行により啓発を行う。	B	○入学時・保護者会でSC制度を周知、適宜個別にも利用を呼びかけた。 ○3月に中学校との情報交換(訪問)を実施する。 ●SC通信の発行はやや遅れ気味であった。
いじめの防止等	インターネットや携帯・スマートフォンによるいじめ等の防止に努めている。	・教師と生徒の双方による現状の理解	・情報モラル教育の充実・徹底を図る。 ・生徒会による「いじめ根絶運動」を促進する。	・情報モラル講演会を実施。HRや学年集会を利用し、日常から繰り返し指導を行う。	B	○ICT 支援員を活用した情報モラル講演会を行った。 ●校内でのスマートフォン利用規則違反が多かった。
	いじめを未然に防ぐ体制・意識が確立されている。	・いじめ問題検証委員会の活用 ・ネットいじめ等早期対応推進事業の活用	・「いじめは必ずある」との前提に立って、学年の中での情報交換を密にし、常にアンテナを高くしていじめ等の未然防止に取り組む。	・スクールサインへの登録を奨励する。 ・学年内・学年間での密な情報交換を行い、未然防止に努める。	B	○学年会等を通じての情報交換は積極的に実施している。今後も未然防止に努める。
地域連携(コミュニティ・スクール等)	保護者・地域の方々に学校の活動内容が理解されている。	・定期的で適切な情報発信 ・情報発信機会の拡大 ・本校独自の魅力発信	・校内外の取組などの情報の積極的発信を図る体制を整える。 ・分掌間の連携を取り、迅速かつ正確な情報発信を行う。 ・HPの定期的な更新を行う。 ・3年間を見通した	・職員のアイデアを積極的に生かし総務広報と連携し組織的な広報活動を展開する。 ・中学校への取組案内等を密に行い昨年度以上の魅力化発信を行う。 ・進路通信、進路のしおりを発行し進路指導に活用する。 ・保護者集会を通	B	○HPのリニューアルを行い、記事の更新頻度も高めた。その結果、HPへのアクセス頻度が昨年度より1.3倍に増加した。 ●サイトの再構築は進んでいるが、まだ整理ができていないページもある。

			「進路指導年間計画」の改善と周知を図る。 ・研究開発部の取組を本校ウェブサイトで配信する。 ・教育相談体制やカウンセリングなどに関する周知の徹底を図る。	じて進路情報を提供する。 ・研究開発部の授業改善等の取組を写真や動画で記録し、本校ウェブサイトに配信する。 ・PTA広報委員会を開催しPTA新聞「めいりん」を定期的に発行する。 ・正確な情報を確実に家庭に届けるため安心安全メールと連動させる。 ・HP更新による広報活動を昨年度以上に推進する。 ・本校の教育相談体制について入学時・保護者会等で情報提供を行う。		○主幹教諭が中心となり、計画的に中学校訪問を行い、本校の魅力発信を行った。 ○学習塾等を対象とした学校説明会を開催した。 ○鹿本高校 SSH 通信は4月から1月までに15号配信できた。 ○PTA新聞「めいりん」の7月発行号を、本校の保護者だけでなく地域にも配布した。 ○安心安全メールを活用し、小まめに情報発信を行った。 ●紙情報よりも電子媒体での情報が伝わりやすい。情報の電子化を今後も検討し進めていく。 ●中学校との行事等の重なり等があり、オープンスクールへの参加生徒数が減少した（令和3年度200名→令和4年度188名）。中学校との連携を密に図る必要がある。参加できなかった中学生を対象としたミニ・オープンスクールを各中学校で行った。
学校防災体制の整備と防災教育の推進	・生徒の防災意識の高揚	生徒、職員の防災意識の高揚を図るための防災教育を推進する。	・避難訓練（避難経路確認、防消火訓練、シェイクアウト訓練）の実施 ・防災だより発行 ・地域の防災訓練への参加 ・本校危機管理マニュアルの見直しと発行 ・マイタイムラインの作成	B	●避難訓練は熊本防災教育月間に合わせて、来年度は4月に実施する。 ●危機管理マニュアルの見直しはまだ十分に進んでいない。 ○マイタイムライン作成は地学基礎の授業にて1クラス実施した。	

	総務部とPTA(保護者)との連携	・総務部関連行事、PTA活動の活性化	・各学年・各々がPTA役員(保護者)と連携し、学校行事の円滑な運営に努める。 ・城北地区高等学校PTA指導者研究大会参加者拡大に向けての準備を進める。	・各委員会でGoogle Meet等を使っている会議を実施する。 ・城北地区高等学校PTA指導者研究大会への案内を早めに行い、多くの参加を募る。	B	●各委員会でGoogle Meet等を使っている会議は実施できなかった。 ●城北地区高等学校PTA指導者研究大会への案内を9月初旬に行った。参加申し込みは5名と少数であった。
	奨学金などの支援活動を確実に実施している。	・保護者・生徒への周知の徹底 ・適切な事務処理	保護者、生徒へ奨学金の情報を提供し、生徒の就学の支援をする。	・教室掲示や安心安全メール等で情報提供をし、必要に応じて説明会を実施する。	A	○奨学金の情報に関しては、教室掲示をしたり、個人的に資料を渡したりと多岐にわたる情報提供を行うことができた。
	地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を活用する。地域団体(住民)との連携を活かす。	・地域の伝統行事等への理解と参加 ・地域団体・地域住民との交流促進	・生徒のボランティア活動の積極的な参加を推進する。 ・生徒の中高連携行事を推進する。 ・総合的な探究の時間の再構築を行う。	・生徒の成長を促すためにも感染症対策に十分な配慮をしながら、できる範囲で活動を促進する。 ・通常の学年会とは別に、総合的な探究の時間を検討する学年会(総探学年会)を週時間割に組み込む。 ・総合的な探究の時間または各SSHプロジェクトについて、学年担当者が原案を作成し、総探学年会で提案、研究開発部で共有する。	A	○地元の小中学校および支援学校との交流活動を行うことができた。 ●1年の「STI for SDGs」は生徒の意識の高まりを考え次年度は時期を変更する。 ○2,3学年は個人面談を行い、指導を行いながら、実地調査等ができた。 ○進路指導部と連携し大学出前授業を実施した。
保健安全管理	健康教育の推進	・健康課題をもとにした生徒保健委員会活動の活性化 ・学校保健委員会の開催 ・講演会等の実施	・保健委員の自主的な活動と啓発活動を行う。 ・学校保健委員会の充実を図る。 ・保健体育科と連携し、計画的な健康教育、性教育を実施する。	・キャンペーン活動や文化祭の取り組み、保健だよりを定期的に発行する。 ・学校医、PTAと連携し3学期に開催する。 ・性教育講演会、薬物乱用防止教室、熱中症予防教室を実施する。	A	生徒保健委員会では、熱中症のキャンペーン活動、保健だより等魅力あるものが発行できた。部活動生に対し熱中症予防教室を実施した。 ○性教育講演会を3年生は1学期、1年生は2学期に実施した。 ●PTAとの連携はできなかった。

	安全点検や環境美化の充実に取り組んでいる。	・安全点検の実施と改善	・各学期に1回、校内安全点検を実施する。	・点検率100%を達成する。	A	○安全点検を学期毎に実施し、改善が箇所を確認することができた。
		・美しい学校づくり	・環境美化を推進する。	・美化委員会を中心に、環境ISO宣言に基づいた取り組みを実施する。	A	○学校全体で校内美化に取り組んだ。本校を訪問される外部の方からもお褒めの言葉をいただいた。
教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	・安心して教育活動に取り組める環境づくり	・安全で整理整頓された敷地・校舎の維持管理に必要な対策を行う。 ・衛生委員会による各学期1回の校内点検を行う。	・根本的な施設設備については、従前からの営繕計画に基づき、計画的に取り組む。 ・突発的事態や営繕計画に掲載されていない事項については、各人からの要望を踏まえて校内巡視によって随時把握を行い、学校全体で対応する。 ・生徒や教職員が安心安全に教育活動に専念できるよう、小さな綻びも見逃さず、機動的に対応するよう心がける。	A	○安全点検の結果を受けて、修理必要な箇所は事務部と連携し対応した。 ○事務部と連携し、コロナ感染対策に必要な物品を継続的に準備できた。 ○校内の消防設備の誘導灯不良箇所が定期点検で発覚し、県教委と協議、予算化し、即時対応を行った。 ○校内施設の不良箇所報告に対して、現場に赴き、関係者で対応を協議し、最善の措置を行うことができた。 ○トイレ改修工事が予定どおりの工期で完了した。
図書館教育	メディアリテラシー能力（情報を評価・識別する能力）を育てる。	・読書習慣の定着 ・学習・探究・情報センターとしての図書館づくり	・図書館の有効活用を推進する。	・書架の案内の整理、新刊案内を工夫する。 ・総合的な探究の時間の取組と連携する。	A	○12月まで493冊の本を購入した。 ○WiFiの整備により、図書館でタブレットPCを使用した授業が可能になった。

4 学校関係者評価

本校では7年前から保護者・生徒・職員に同じ内容のアンケートを実施し、三者の意識や評価を比較・分析できるようにしている。過去3年間の経年比較に加え、本年度は生徒・保護者の過年比較を行い、入学以降の生徒・保護者の変容等を分析した。学校関係者評価委員会（学校運営協議会）はコロナ禍ではあったが、万全の感染予防対策を講じた上で、当初の計画どおり3回とも対面開催することができた。各部からの自己評価表をもとに総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部・研究開発部・SSH研究部がそれぞれの取組を整理し、三者アンケート結果の分析等について説明を行った。

アンケートでは、生徒評価が大半の項目で上昇傾向が見られた。特に「学校行事への積極的参加」

「部活動・生徒会活動への積極的参加」「健康・安全に関する教育」については高評価であった。学校行事については、本年度はコロナ禍であっても中止・延期を安易に選択するのではなく、「どうすれば実施できるか」の視点に立ち、生徒・職員で議論を重ね、工夫を凝らしながら実施できたことが評価されたと分析する。また、「人権教育」の項目の評価が昨年度から大きな上昇が見られた。学校としてとても喜ばしい限りである。過年評価では、特に３年生の評価について、年次が上がるごとに全項目において上昇傾向が見られた。

保護者評価は、昨年度は６割に満たないアンケートへの回答率が、本年度は８割超となり、アンケートとしての信頼度が高まった。昨年度と同様「入学させての満足度」、「環境美化」、「生活指導」の３項目の評価が高く、生徒・職員一人ひとりの取組の努力の成果が鹿本高校への満足度を高めたと分析する。反面、生徒評価では上昇傾向が見られた「授業の工夫」についての評価が低かった。学校の取組が保護者にうまく伝わっていない現状があるので、情報発信のあり方について検討する必要がある。過年評価では、生徒と同様に保護者においても３年生の評価は、年次が上がるごとに全項目において上昇傾向がみられた。

職員評価は、大半の項目において昨年度より評価が高まった。低評価傾向にあった「保護者や地域への信頼」の項目については、本年度は大きく上昇した。ＳＳＨ事業への取組等が徐々に軌道に乗り出している成果であると分析する。

学校関係者評価委員会では、生徒の探究（挑戦）を学校全体で支援していることやアンケートの大半の項目で上昇傾向が見られたことを評価いただいた。反面、低評価であった広報活動の面では、新たな工夫・改善の必要性があるとの助言をいただいた。情報発信のあり方について、早急に改善を図り、次年度以降の生徒募集活動に繋げたい。

５ 総合評価

学校評価アンケート結果や自己評価及び学校関係者評価から、昨年度からの振り返りをベースに新たな工夫・改善を図り、ＳＳＨを中軸に据えた教育活動を通して探究（挑戦）する生徒の育成を図る本校の取組に一定の評価を得た。コロナ禍で様々な制約がある中で、体育祭、文化祭、修学旅行等、学校行事の大半を実施できたことは生徒の達成感醸成に繋がった。また、働き方改革については、業務のＩＣＴ化をはじめ、みらい創造科の週当たりの授業時数の削減等にも着手する等、昨年度以上の業務改善を実現できた。その結果、部活動の活性化や生徒と向き合う時間の確保、職員の年休等の取得日数向上等に繋がった。また、校内美化にも学校全体で取り組むことができた。

本校の喫緊の課題である生徒募集活動については、学校ホームページをリニューアルし、記事の更新頻度も高めたほか、主幹教諭を中心とした計画的な中学校訪問、ＳＳＨ通信やスポーツ健康科学コースジャーナル等の広報紙の発行等、昨年度以上に学校全体で情報発信に取り組んだが、結果として大きな改善には繋がらず、逆に志願者数を減らしてしまう形となった。途中途中で業務の振り返りを小まめにしていく必要がある。学校関係者評価委員会でいただいた意見をもとに研究を重ね、更なる本校の魅力化づくり、そして適切な情報発信に努めていきたい。

６ 次年度への課題・改善方策

次年度はＳＳＨ指定３年目として、文部科学省からの中間評価を受けることになる。文部科学省からの実施視察やＳＳＨ運営指導委員会を通していただいた助言・指導を踏まえながら、更に取組を加速化させていく。本校ＳＳＨの柱である鹿本ＳＴＥＡＭ、クロスカリキュラムの更なる充実を図る。また、県北地域初のＳＳＨ指定校として、地域全体の理数系人材の育成を図れるよう外部連携を更に活発化させる。進路指導については、次年度からの朝課外の廃止に伴い、一人一台端末を効果的に活用する等、新たな学力向上対策に取り組むとともに、ＳＳＨとの関連性を意識した指導を展開する。また、進路についての保護者の方の理解が深まるような企画も検討する。

生徒募集活動については、プロジェクトチームである生徒募集委員会を中心に、学校全体で取り組んでいく。今年度の反省を踏まえた上で、学校関係者評価委員会でいただいた意見等をもとに、外部連携や広報活動・情報発信のあり方等を研究し実践することで本校の魅力を強力にアピールする。

本年度も生徒の交通事故や交通違反、マナー等に関する苦情等を多くいただいた。専門的知識を持つ外部人材の活用を図り、命を大切に作る心を育む教育に学校全体で取り組んでいく。

本年度から導入された観点別学習評価についても、評価のための評価にならないよう、教務部を中心に更なる検証を進め、精度を高めていく。